

6 安全な水とトイレを世界中に



◀ ゴール6 ▶

安全な水と トイレを世界中に

世界の主な目標

- 水と衛生的な環境をきちんと管理し、すべての人々が安全で価格が安い飲料水を得られるようにするとともに、適切かつ平等な下水施設・衛生施設が整った環境で暮らせるようにします。

日本の状況

- 水道管や下水道管などの老朽化が、ますます進行すると言われています^{注1}。



名古屋市の取り組み例



- 施設を適切に管理したり、新たに作り直すことで、安心・安全で安定した上下水道サービスを提供していくよ。
- ジャコからいつでも安心して、安全でおいしい水道水を飲めるように取り組んでいるよ。
- 國際協力機構(JICA)などと連携し、開発途上国^{かいけつ}の水問題解決に向けた国際協力も行っているよ。

注1:厚生労働省、国土交通省ホームページより。

注2:ユニセフ・世界保健機関(WHO)による JMP報告書「飲み水と衛生の進歩と格差(2000年~2017年)」より。

マンガで学ぶSDGs



6 安全な水とトイレを世界中に



どんな目標？

- すべての人に安全な飲み水を確保する
 - きれいなトイレなど衛生環境を管理する
- 考えるためのキーワード
- 水道・下水道等
 - バーチャル・ウォーター
 - 水と食料生産



水道・下水道等

Q: 日本は飲み水の心配はなさそうだけど…?

A: 日本は、水道の蛇口から安全な飲み水が手に入る世界でも数少ない国の1つです。全国の水道普及率は98.0%、愛知県は99.9%でほぼ全域に水道が行きわたっています。また、下水道等の汚水処理人口普及率は年々増加しており、2018年度末において全国で91.4%、愛知県で91.0%となっています。日本の水道・下水道等の技術は、技術や運営手法が評価されてアジア諸国の水道整備やまちづくりにも貢献しています。

Q: わたしたちにはどう関係しているの?

A: 人口減少などを背景に、今後、水道・下水道等の施設を良好に維持していくためには、どの地域においても家庭用料金の一定の上昇は避けられません。人口減少時代にあって、安全・安心につながる水道・下水道等を始め、電気やガス、道路などのインフラをどのように維持・管理していくかは、全国共通の課題です。



バーチャル・ウォーター

Q: 小麦や牛肉を輸入することは水を輸入しているのと同じ?

A: 「バーチャル・ウォーター」とは、食料を輸入している国において、もしその輸入食料を自国で生産するとしたら、どの程度の水が必要かを推定したものです。例えば、1kgのトウモロコシを生産するには、1,800lの水が必要ということは、トウモロコシを輸入するとその生産に必要な量の水を輸入していること同じになります。現在の日本の食料自給率は約37%であり、約63%分の食料に係る大量の水を海外から輸入していることになります。

Q: わたしたちにはどう関係しているの?

A: 地球上に存在する水のうち、わたしたちが使える水はわずか0.01%に過ぎません。食料生産のために大量の水を使用することで地下水の枯渇や水不足が発生している地域もあります。輸入する食料の生産にどのように水が使われているかについて知ることは、輸入先の国や地域の水問題とわたしたちがどのように関係しているのかを知ることにつながります。



考えよう!
やってみよう!

SDGsアクション

水を普段から大切に使おう
 食べているものが生産にどれくらいの水を使うか調べてみよう



目標6 愛知 ×SDGsアクション メタウォーターサイター下水道科学館あいち

館内では、下水道や水環境について体験しながら学ぶことができます。3,000冊以上の蔵書をもつ図書コーナーや水に関する3D「水のシアター」もあります。ぜひ遊びに行ってみましょう。

●ホームページ: <https://eppy.jp/>

